

# シーエスケイ 切板から鉄骨、製罐・板金まで

## 群馬に新「厚板一貫加工」拠点

### 26年春操業 既存工場の機能集約

厚板溶断加工業大手のシーエスケイ（本社・群馬県邑楽郡千代田町大字木崎、社長・坂本純一氏）は、2026年4月頃の操業開始に向け、現在はグループ企業も含めて群馬県



25年の工場完成図

内を中心にして点在する全導人も計画しており、厚板シャワー大手。積極

事業拠点（一部除く）を30段ストッカーと連動した8×20材対応の高出力ファイバーレーザーマシンや37段ストッカーと連動した5×10材対応のファイバーレーザー、開先加工機能を装備した門型ファイバーレーザー、環境配慮型プラスチック切断機などが目玉。一方で同社の「SDGs宣言」に基づく環境経営方針に準拠するため既存のCO<sub>2</sub>レ

#### 最新鋭設備導入を計画

切板一次・二次加工や川下加工製品なども含めた総加工量目標は月産1万ト規模。

新工場開設に当たり最新鋭加工設備多数の

厚板シャワー大手。積極的な業容拡大で千代田町や太田市など群馬県東南エリアから加須市や熊谷市といった埼玉

県北東エリアにかけて大小合わせて工場、倉庫、営業所を構える。最近ではM&Aを含めた事業領域の拡充・深掘りにも力を入れ、傘下には板金・製罐業のTMS（埼玉県加須市と群馬県みなかみ町に工場立地）やユウセイテクノ（群馬県太田市に工場立地）、Rグレイドファブの谷津組鉄工所（群馬県館林市）があり、これらも含めたグ

ループ拠点数は大小合わせて10カ所強に上る。このうちの大半を新工場に移管する計画。1カ所に機能集約することで、まずは安全操業の実現を最優先に、

管理体制の向上や生産効率アップ、自動化・省力（人）化促進、環境配慮に根ざしたSDGs経営の推進などに力を注ぐ。総加工量で月産1万トが定量目標だが

需要構造の変化や顧客ニーズの多様化も踏まえ「独自の付加価値向上を追求した質の高いビジネスモデルの構築・実現を目指す」（坂本社長）としている。